



七里小だより

2月号

さいたま市立七里小学校
令和3年2月1日

ありがとう 給食

校長 保坂 泰司

冷たい風が骨身に染みる日が続く日が多くありますが、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍ということもあり、引き続き感染防止及び体調管理にはどうぞお気を付けください。

さて、先月の18日(月)～22日(金)の間、本校では「給食週間」を実施しました。目的は、「毎日食べている給食を通して、感謝する気持ちや食事のマナーを身に付ける」です。そのための主な取組としては、児童朝会でどのように毎日の給食が作られているのかその様子をテレビで紹介したり、「元気モリモリキャンペーン」と題して、食缶が空っぽになったクラスにはシールを渡したりしました。

普段の子どもたちの給食時の様子は、給食当番が配膳台の上にお盆やお皿、食缶を用意します。そこへ子どもが一列に並んで自分が食べる給食を当番に配膳してもらいます。その後、みんなで「いただきます」をしてから食べ始めます。毎日の献立は、子どもたちの健やかな成長を考えて栄養士が作成し、安心・安全な給食を第一に考え調理員が作ります。

私は、子どもたちが給食週間の目的を実現できるよう、これからの日々の給食を以下のように、取り組んでいって欲しいと考えます。それは、①正しい姿勢で(肘をつかずに) ②正しく箸を持ち ③お皿やお茶碗を持って ④残さず食べる です。これを子どもたちが当たり前に行えるようになれば、自然と「感謝する気持ち」が子どもたちの中に宿っていくものと確信します。今回の給食週間では、子どもたちに感謝の気持ちが宿るために自分たちがすべきことに気付くきっかけとなることを願っています。学校でも、子どもたちへの声掛けを行っていきたいと思います。

ここで話は変わりますが、地域、保護者の皆様が小学生だったころの給食はどのようなものだったでしょうか。私が小学生だった時の給食は、牛乳がテトラ型のパックや瓶に入ったものがあつたり、ミルメーク(粉末→牛乳に入れるとコーヒ牛乳になります)、肝油(ボタンの形をしたグミのような食感)、クジラの竜田揚げなどが出されたりして、どれも忘れることのできないものばかりです。そして、学校での一番の楽しみが給食だったことも確かです。

本校の職員にも聞いてみたところ、脱脂粉乳やコッペパン、ふかひれスープ、給食が苦手な食べるのにいつも時間がかかっていたことなど、給食の思い出は様々なようです。ご家庭でも、ぜひお子様に保護者の方が小学生だったころの給食について話をしてみてください。

最後に、「給食週間」での取組の一つである子どもたちから調理員さんへのメッセージカードを紹介させていただきます。

- ・カレーをいつも作ってくれて本当にうれしいです。学校のカレーはとても美味しいです。
- ・いつも給食は、とてもびっくりするくらい美味すぎて、昨日のサラダを6回お代わりするくらい美味しかったです。
- ・毎日、給食を作ってくださいありがとうございます。私が好きな料理は、キムチチャーハンです。いつも、心を込めて食べています。
- ・いつも、おいしい給食をありがとうございます。栄養バランスが整っている給食のおかげで、いつも楽しく学校へ通うことができます。
- ・僕は、好き嫌いが多くて、食事が好きではなかったのですが、給食のおかげで、今では好き嫌いもなくなりました。これからも、美味しい給食を楽しみにしています。



※こちらも、ぜひ参照してみてください。→「**第3次さいたま市食育推進計画**」

【さいたま市 Web ページにて「食育」で検索】